

「錬士会について」

錬士会長 和田 大助

新しい年を迎え、皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。昨年は、錬士会の活動に多大なるご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。本年も引き続き、皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

前任者の支部長就任に伴い、副会長からのスライドという形で錬士会長を拝命しました。歴代会長の強いリーダーシップと、会員の皆様のご多大なるご尽力により、輝かしい歴史を築いてまいりました。そのような伝統ある錬士会の舵取りを担うことに、身の引き締まる思いです。

正直に申し上げまして、このような大役が自分に務まるのか不安もございますが、お引き受けした以上は、会員の皆様が「参加してよかった」と思えるような活動を目指して、精一杯努めてまいります。

今回の就任にあたり、私は「和敬（わけい）」の精神を大切にしたいと考えております。段位や経験の垣根を越え、お互いを敬い、楽しみながらも高みを目指せる会でありたいと願っています。

至らぬ点多々あるかと存じますが、皆様の声に耳を傾け、より良い会運営を目指してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

硬い文章が続きましたが、会員や関係団体それぞれが敬いの気持ちを忘れず、楽しく、仲良く弓道に取り組める錬士会であればいいと思います。会員の皆様のために役員一同ワークライフバランスという言葉を手放さずに会の運営に携わってまいりますので、何卒宜しくお願い致します。



「基本」

鹿児島県弓道連盟会長 釜口 昭壽

錬士の皆さん、お元気ですか。

インフルエンザが拡大してきましたが、健康に気をつけて日々、頑張っていることと思います。

今年は、国体少年男子遠的1位、近的2位、男女総合6位、九州対県試合で錬士の部1位を獲得しています。これも皆様のおかげだと感謝しております。

皆様におかれましても、審査・各種大会等に積極的に参加していただき、新しい仲間も多くなっているようですね。これからもさらに充実した活動を期待しております。

弓道の本質に迫るには、体配・射業・射心が渾然一体となっこそ、その人なりの良射を生むと言われます。

その中で、日々変わる射に苦勞しますが、この一本に集中して引くことが出来たら良いと思います。

漫然と練習するのではなく、「この一本」、同じような射はできないが、射法の基本、最高の正射を念じて自信をもって自分の個性、特徴を活かして、狙いをずらさず、離すことが出来たらと考えております。

錬士の皆様には、指導的立場から身をもって指導していただくことをお願いいたします。

終わりに、錬士会の益々のご発展を祈念申し上げます。



「全日本遠的選手権大会に参加して」

始良支部 錬士五段 田中 慶子

この度、10月26日に開催されました全日本遠的選手権大会女子の部に出場してまいりました。結果は残念ながら予選通過とはなりませんでしたが、自身の修練の在り方を深く見つめ直す大きな機会となりました。

当日は緊張の中で射位に立ち、狙いのわずかな乱れや離れの冴えの不足がそのまま矢勢に表れ、遠的の難しさをあらためて痛感いたしました。日ごろの修練について振り返ると、毎日稽古に臨みたい思いはありながらも、仕事や子育てと思うように時間が確保できない日もあります。また、ひとり稽古することが多く、誰かに見てもらうことの少ない環境の中で、射の偏りに気づくのが遅れてしまうこともありました。練習できない日があっても、翌日の最初の1本目を確実に入れられるように意識して臨みますが、現状ではなかなか思うようにいかず、的中も日替わり弁当のように日ごと変わってしまいます。そのため、基本に立ち返り、大事な要点を確実におさえ、毎回同じように引ける射を身につけたいと感じております。思うように射がまとまらず、苦しさばかりが胸に積もる日もあります。弓を辞めてしまえば、この重さから一瞬で解放されるのではと考えてしまうこともあります。しかしそれでも弓を手放したくないのは、悩み続けながらも一歩進みたいという小さな意志が、心の奥で消えずに灯っているからだと思えます。日々の生活の中で感じる迷いや揺らぎがそのまま射にも表れ、生活と弓道は切り離せないものだ実感することが増えました。だからこそ、ひとつひとつの行いを丁寧に重ねることが、いつか射の落ち着きにつながると信じています。

今後も一射一射を丁寧に重ね、安定した射を目指してまいります。日ごろよりご指導いただいている先生方、共に励まし合う仲間の皆さまに心より感謝申し上げます。今回得た学びを弓道修練の糧とし、今後も真摯に弓と向き合ってまいります。

「全九州弓道選手権に参加して」

支部 錬士六段 永田 颯樹

いつもお世話になっております。

さて、今回は全九州弓道選手権に参加してどう感じたのか。加えてどのような修練をしてきたのかを記します。

まず、この試合、私が初めて経験する「点数制」という試合でした。試合が始まり場の空気が一転。天皇杯で数多くの成績を残してきた精鋭方が入場から退場までを完ぺきにこなしていくのです。私も続き体配・射と共にやりきり、4本詰めたのにもかかわらず、結果はぎりぎりの予選通過。そして決勝。若さとの中で何とか天皇杯出場権を獲得することができました。

今回の試合は、私の弓が初めて点数化された試合であり、予選の4本中2本的中すれば予選を超えられるような弓引きになりたいと感じました。

修練に関して私の弓道に対する考え方は漠然としており、「楽しいから、ずっと引いていたい」という意識が軸となり、通過点として「全日本選手権での最高得点賞」と「昇段審査で昇段」を目標に日々精進しているところであります。

その中で弓道という武道は「臨機応変」という四字熟語がいかなる場面でも試されるものだと考えております。例えば審査において持ちの射礼が5人ではなく3人であった時。大会にて的の右に矢が飛んだ時、的の中心近づける最適解を選ばなければならない時。があります。このような事例から考えて「現状維持」をしようと私は思わないです。

通過点である目標に対し「常に備える」これを念頭に置き日々楽しく弓を引いている次第であります。

最後に、私は人と切磋琢磨することが好きです。経験、段位、にかかわらず他人の意見というのは面白く、すぐ聞き入ってしまうような弓道好きです。今後も鹿児島県のため、弓道という世界のため、自分のために精進してまいりますので、この永田という人間を何卒よろしく願います。

「大的始式(おまとはじめしき) の保存と現状」

熊毛支部 迫田 昭文

種子島では毎年「1月11日」に種子島家当(現在第28代目)の列席のもと大的始式が行われる。

大的始式は種子島の第12代当主「種子島忠時」公が京都でともに修練した兄弟子「武田筑後守光長」氏を弓術の指南役として招聘し、氏の来島により京都で行われていた「御的始式」が室町時代の西暦1500年に伝えられたのが起源で、翌1501年から500年を超える長きにわたり保存伝承されている。

式場は種子島家の家紋「三鱗」の陣幕で囲まれ、6組のかがり火がたかれる。

大的は5尺8寸(174センチ)で地上7尺8寸8分(236センチ)に黒、白、浅黄の3色の布で上下三方につる。

伝来当初は弓の杖約33杖(33間約60メートル)で行われていたが、現在は近的距離で行われている。

現在行われている式は、安土・桃山の武家社会への過渡期の第16代当主種子島久時公が年頭にあたり島の平安無事を祈るため、新しく「犬神仕置」の条目を追加し、伝来当初の公家行事に武家文化が融合して種子島独自の行事へと変化したものである。

暮れ六つの鐘(現在は太鼓)の合図に合わせ、師範役から「本座につかっしゃれ」の声が発され、神社側に1番高家(弓太郎)、3番他家、5番高家、反対側に2番他家(弓次郎)、4番高家、6番他家(はずみ矢)の2隊に分かれて陣幕の前の台座へと移動する。

師範役から「始めさっしゃれ」の声がかかり、まず1番組の弓太郎と弓次郎の2人が射場に入場し行射が始まる。

射手は2人そろって大的に向かい蹲踞の後、射場の前に盛られた数塚(砂山)まで膝行し、砂山の表面に犬の字を3回書く「犬神払い」の所作を行う。

肌脱ぎを済ませ、矢番えの後取掛けて、まず体をかがめて地を払い、次に体をそらして天を払って行射するが甲矢は送り矢といい、呼吸の続く限り「ヤアー」と高音で射放し、乙矢は止矢といい一殺必中の勢いで「エイ」と短く切る。



【写真：天地を払い、行射】

その後同様に2番組、3番組と入場し、行射を進める。

1組が1回に4射、3組で12射を射放し、3回繰り返して36射の矢を放すことになるが最後の36本目は「満つれば欠ける」の戒めから師範役の「はずまっしゃれ」の号令により無言のまま外すことになっている。

式の最後には、師範役から「十(つづ)の衆まいらっしゃれ」の号令が発せられ、射手は射場の当主の前に蹲踞し、神社神官から褒美を受け取り、自席へと戻る。

「十」とは、よく射中てた者のことで、はずみ矢の最後の射手は的をはずしたことから当主の前では褒美は受け取らず、式終了後に受け取る。

平安言葉の号令とたかれた松明の荘厳な雰囲気の中、素おう・長袴のいでたちで種子島の平安無事、無病息災、五穀豊穰を祈る行事として平成4年には鹿児島県無形民俗文化財の指定がなされ、保存会を中心に大切に保存されている。

しかしながら、近年過疎高齢化により射手の確保が難題となり、保存会として、今後どのように保存伝承していくのか頭の痛い問題に直面している。

様々な検討をしながらもなかなか策を見いだせない現状である。

戦後弓道連盟の諸先輩方が並みならぬ努力で復活させて以来数多くの人々の支援をいただき脈々と引き継がれてきた大的始式を今後も後世に引き継いでいくためにも最大限の取り組みをしていきたい。



【写真：式典終了後 当主とともに】

令和7年度 錬士会第1回研修会報告 ならびに今後の研修会予定について

鹿児島支部 錬士六段 牧之瀬 義広
令和7年11月8日(土)、9日(日)の両日に、
国分市弓道場において令和7年度の第1回錬士会
研修会を実施いたしました。

当初の予定より日程・会場を大きく変更しての実施となり、会員の皆様には大変ご迷惑とご不便をおかけしたことと思いますが、8月の猛暑を考えますと、かえって参加者の皆様には涼しく快適な環境のなかで研修に臨んでいただけたのではないのでしょうか。

さて、今回の研修会は、研修会の原点に立ち返り、「弓を引く」こと、「技術面の向上」をテーマに、射技研修と射礼研修を研修の柱に据えて、参加者がじっくりと研修に取り組めるように計画・実施しました。講師の釜口先生、濱田先生、池袋先生の丁寧かつ的確なご指導と、研修生の皆様が真摯な態度で研修に取り組んでいただいたことにより、和やかな中にも質の高い研修会を実施することができました。一方で、日程と会場の変更の影響もあつてか参加者数の少なさも目立ち、役員としても今後の課題を再認識することになりました。今後も、多くの参加者を集められるような魅力ある研修会の実施をめざして企画を行っていきたくと考えておりますので、会員の皆様の忌憚なきご意見とご助言をお寄せください。

最後に、講師の釜口先生、濱田先生、池袋先生、ご参加いただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

(令和7年度第2回の研修会は以下のとおり実施予定です。)

令和7年度 第2回錬士会研修会

- 日時
令和8年2月28日(土)・3月1日(日)
9時～17時(予定)
- 会場
西原商会アリーナ弓道場
- 講師
現在未定。参加者数をみて講師数等を検討予定。

昇段・昇格者の紹介

次の方々が昇段・昇格されました。
おめでとうございます。

(R7年1月～R7年12月、敬称略)

【教士】

谷山 幸司 (支部)

【六段】

永田 颯樹 (鹿児島支部)

鎌田 拓磨 (出水支部)

【錬士】

岡村 克久 (大島支部)

植村 遼香 (曾於支部)

瀬戸口 央枝 (肝属支部)

大山 滉平 (鹿児島支部)

米丸 里香 (川薩支部)

宮本 利香 (始良支部)

前田 敏明 (伊佐支部)

市未 恵利 (始良支部)

小牟田 まゆみ (鹿児島支部)

比良 智子 (曾於支部)

山下 由貴 (南さつま支部)

松元 悠莉 (始良支部)

玉置 葵衣 (肝属支部)

橋口 誠 (日置支部)



※「錬士会だより」は右の
二次元コードを利用して、
PDF(電子版)を見ることが
できます。



全国大会等への出場・結果

※錬士会員(大会時点)のみ掲載

○全九州弓道選手権大会

(R7/7/26・27) 熊本県熊本市

男子

永田 颯樹 (鹿児島支部)

野元 敬史 (鹿児島支部)

女子

田中 慶子 (始良支部)

○第76回全日本男子弓道選手権大会

(R7/9/19~21) 中央道場

永田 颯樹 (鹿児島支部)

橋本 隆志 (鹿児島支部)

野元 敬史 (鹿児島支部)

○第76回全日本弓道遠的選手権大会

(R7/10/24~26) 中央道場

男子

橋本 隆志 (鹿児島支部) … 予選通過

女子

田中 慶子 (始良支部)

○令和7年度九州各県対抗弓道大会

(R7/10/26) 大分県大分市

団体 … 優勝

永田 颯樹 (鹿児島支部)

大山 滉平 (鹿児島支部)

和田 大助 (曾於支部)

個人

大山 滉平 (鹿児島支部) … 優勝

永田 颯樹 (鹿児島支部) … 3位

【編集後記】

令和7年度も多数の昇段・昇格者が生まれ、
鹿児島県連にとっても飛躍の年となりました。

錬士会としても、令和7年度に錬士に昇格した
方々への入会のご案内を積極的に行い、会員の増
員を図りたいところです。

令和8年度も、会員それぞれの目標実現が果た
される年になることを祈願しつつ、今後も会員全
員で錬士会の活動を盛り上げていきましょう！